

留学先のアメリカで出会ってから、ずっと一緒に歩んできました。
二人共90歳を超えましたが揃って元気に暮らしています

京都(ゆうゆうの里) 吉見吉昭様(96歳) 富美子様(91歳) 平成14年12月二人入居

台湾から引き揚げ、東京で学んだ縁で地震地盤工学の専門家

吉昭様 終戦の翌年に台湾から引き揚げられました。引き揚げと言いますが台湾に移住していた日本人には、財産没収・強制送還と同意です。家族は貨物船で名古屋港に着いてから愛媛に住む父方の親戚に身を寄せることになり、私は松山高校に転入することができました。多くの同級生は関西の大学に進みましたが、私は学費を稼ぎやすい東京を選び、東京工業大学の建築学科に進みました。私の専門は地盤調査に基づいた、強い地震でも建築基礎が被害を被らないように設計するための学問です。午前中は大学に通い、午後から設計事務所でアルバイト。仕事は仕様書

と報告書の英訳や通訳です。その経験のおかげで、ガリオア・プログラムという奨学金留学の資格を得る難関を突破しワシントン大学の大学院に留学できました。

互いに留学先のアメリカで知り合い、大学の学生用チャペルで挙式しました

富美子様 私はガリオア・プログラムの後にできたフルブライト・プログラムにて留学。1000名中女性性は3名でした。主人とは留学先が離れていましたが、父の知り合いで元進駐軍の軍人のお宅で開かれたパーティで出会ひ、その帰りに主人が車で送ってくれました。以来、年二回会うだけでしたが、その間に手紙のやり取りでお互いのことを知っていききました。そのような期間を経てアメリカ滞在中に結婚。大学の学生用チャペルでの挙式は懐かしい思い出です。

吉昭様 帰国後は、設計事務所で高層ビル設計を行いました。一人目の子供が生まれてから、カーネギー工科大学での仕事のため家族で渡米。その間二人目の子供が生まれました。その後母校の東京工業大学に迎えられる帰朝しましたが、日本に帰ると住宅も小さく、給料は少ないので、妻は中高生の英語や大人の英会話を教えて家計

を支え、子供が大きくなってからは短大で教鞭を執りました。

どこのホームに入居するか…、二人の結論が京都に至ったわけ

吉昭様 隣に住む老夫婦が次第に病院通いで苦勞するようになり「明日は我が身」かと。庭の芝刈りや手入れが億劫に感じ始めた時から、私達の老後をどうするか検討が始まりました。大規模な災害が起きた場合、関東に住む子供達と同時に被災する確率は低い。関西の方が首都圏より値段も手ごろである。それに私の母も妻の母も関西出身で、親戚縁者も多にいる安心感がありました。

富美子様 私には25mの贅沢な温水プールが魅力でした。大学の恩師が入居していた伊豆高原(ゆうゆうの里)を訪ねたことがあり名前にはなじみがありました。その後、京都見物を兼ねて体験入居をしてからすつかり気に入りました。私は歴史好きなので、名所旧跡巡りができるのも決めた理由の一つです。

規則正しい生活と運動を続けること、夫婦で会話をすることが元気の秘訣

吉昭様 入居して安心を感じました。敷地内に診療所があり、いつ



でも診察してもらえます。職員が入居者の顔と名前を覚えていて情報も共有してくれます。プール、食堂では職員の見守りの配慮が行き届いています。入居当時は宇治川までのウォーキングをしていますが。現在も体力作りにアスレチックジムのトレーニングを続けています。日課はパソコン、私のホームページ作り、クロスワードなど。カラオケサークルも楽しみます。

富美子様 NHKの「スケッチ散歩」というグループに入り、絵を描くことや山菜取りなど自分の好きな趣味を見つめました。宇治市の朗読ボランティアを数年続けたときも、毎日が充実していました。プールは現在も続けています。月一回、フルートを習いに行きます。吉昭様 これまで関節が痛くなったりはしたことがありません。規則正しい生活と運動を続けおかげです。

富美子様 それに夫婦で会話することも元気の秘訣ですね。



アメリカ滞在中に出会い結婚(大学のチャペルにて)